

OPP シートを活用した

高校国語の授業スタイル改善に関する研究

—生徒が学び方を学ぶ学習を目指して—

M12EP005
榊原 典子

1. はじめに

筆者は、発問しても生徒が意見を言わないこと、考えているのか・学んでいるのが不明なことに関して授業の課題を感じていた。生徒の実態は、受動的な授業態度で、授業よりも部活動や友達との遊びを重視しているように見え、学ぶ意味を感じているのだろうかという疑問に思っていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3点である。

(1) OPP (One Page Portfolio) シートを活用した高校国語の授業スタイルの改善を検討し、提案する。

(2) 生徒が主体的に活動することによる授業の有効性を検証する。

(3) (1)と(2)により、生徒が学び方を学ぶ学習を目指し、年間の授業計画改善を提案する。

(4) 生徒が学び方を学ぶ学習を目指すことで、資質・能力育成を図る。

本研究では、授業スタイルとは、授業の在り方であり、教師の教育観が具体化したものとして捉えている。教師は生徒が主体的に活動するよう常に働きかけ、学習目標達成を生徒と教師がともに授業の目標として取り組む授業のことである。

3. 研究の方法

(1) 実習は、2013年4月から2014年2月まで、勤務する県立のK高等学校において国語総合現代文分野で年間を通して行った(表

1参照)。

(2) 表1、1～7の全単元でOPPシートを活用し、授業スタイルの改善を検討した。

(3) 年間を通してOPPシート・ホワイトボードを活用し、生徒が主体的に活動するよう働きかけた。(表1・図1・2参照)。

(4) 後期授業開始時にOPPシートの学習履歴欄に記述すべき内容の検討と、生徒各自の4月と9月のOPPシート記述の比較を行い、学習活動の意味づけ・価値づけを行った。

(5) 学習活動の意味づけ・価値づけ後の生徒の変容について、OPPシートの記述を見とることで検討した。

表1：年間を通した国語総合の授業概要と働きかけ(全66時間)

学期	単元 導入	時数	内 容	主体的活動への働きかけ		
				生徒	教師	
前 期	2		図書館オリエンテーション 国語授業ガイダンス	図書館で司書による図書館オリエンテーション アイスブレイクのワーク		
	1	10	随想 『ぐうぜん、うたがら、証書のススメ』 川上未映子	ホワイトボードの活用 ほぼ毎時実施 問いについて ①各自での取り組み ②4人程度のグループでの話し合い ③各グループの発表 ④クラス全体での意見交換 ⑤再度各自での取り組み	OPPシートの活用 ほぼ毎時実施 ①学習前の問いに対する記述 ②毎授業終了時、学習履歴欄に記述 ③随時、学習履歴欄における教師からのコメントに答える等、追加の記述 ④単元終了時、学習履歴の振り返りとその記述 ⑤学習後の問いに対する記述 ⑥自己評価欄に記述 ⑦タイトルをつける ⑧感想・要望等記述	①指導目標の設定 ②OPPシートの作成 ③生徒の記述による実態の見とり ④生徒の記述にコメント ⑤上記③をもとにした次時の授業改善、指導目標の修正 ⑥生徒が完成させたOPPシートの記述を見とり、同単元次回実施時に向けて改善
	2	12	小説 『春が消える』 村上春樹			
	3	8	評論 『春に起きていること』 佐藤洋一郎			
後 期	★	4	詩 『旅上』 萩原朝太郎	単元1～4と同様のホワイトボードの活用 単元1～4で用いてきたOPPシートの活用 学習活動の意味づけ・価値づけ		
	5	10	小説 『羅生門』 芥川龍之介	単元1～4と同じ コンセプトマップの作成、自発的に発言させる	単元1～4と同じ	
	6	8	短歌・俳句 各七音・七句	模造紙を用いたプレゼンテーション ①自分が取り組みたい短歌・俳句の選択 ②各短歌・俳句ごとのグループでの調べ学習 ③各グループの発表 ④各自で鑑賞文作成 ⑤鑑賞文の交流 ⑥気づいたこと・考えたことを記述	単元1～4と同じ	
7	10	小説 『なめとこ山の熊』 宮沢賢治	単元1～4と同じ			

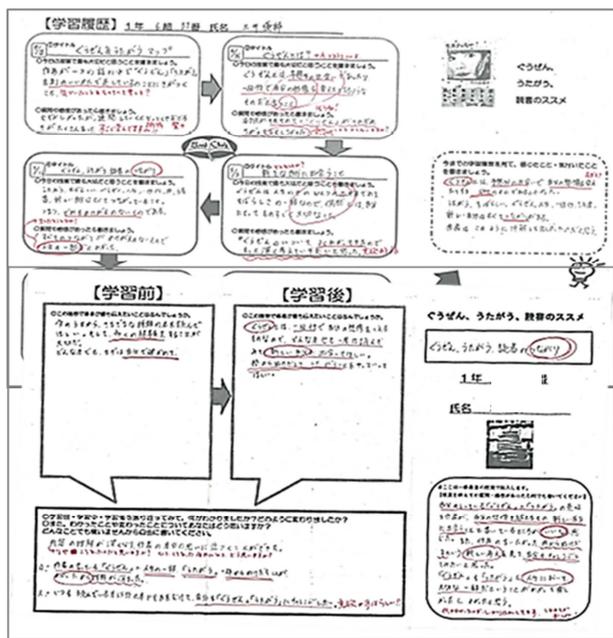


図1：作成した単元1のOPPシートに生徒が記述・両面(生徒A)

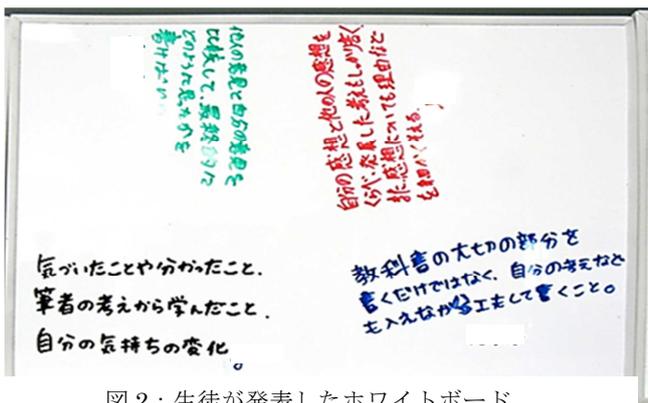


図2：生徒が発表したホワイトボード

4. 研究の結果と考察

(1) OPPシートを活用することにより明らかになった授業スタイル改善の構造

OPPシートの生徒の記述を見とることで、授業スタイルが改善された。それは、教師があらかじめ持った指導目標を生徒の実態に即して修正し、授業を再構造化し、生徒の学習目標の達成を生徒と教師がともに目指すスタイルのことである。詳細を以下に述べる。

第一に、教師は授業前にOPPシートを作成する。その時、単元の指導目標(指導目標A)を踏まえて本質的な問いを設定し、授業を構

造化する。

第二に、授業導入時、生徒に本質的な問い(学習前の問い)に取り組ませることで生徒の疑問を喚起し、学習目標を持つことを促す。

第三に、授業導入時から授業実施中に、生徒の学習前の問いへの記述や、学習履歴の記述を教師が見とることで、生徒が持つ学習目標を把握する。この見とりから、生徒の学習目標に即した毎時の指導目標(指導目標B)へと修正し、授業の再構造化を行う。

第四に、授業終了後に完成したOPPシートを教師が見とることで、単元全体の授業評価を行う。その後、次単元の指導目標Aの設定に反映させたり、次回の同一単元での指導目標Aの修正や授業改善につなげたりする。

このようにOPPシートによって、生徒の実態が可視化され、把握できる。そのため、生徒の学習目標に即した授業スタイルに改善できることが明らかになった(表2参照)。

(2) 生徒が主体的に活動するための働きかけとしてのOPPシート・ホワイトボード利用の有効性

毎時の授業でOPPシートに最も大切だと思うことを書くためには、授業内容について、最も大切なことは何かを自分で考え、判断し、表現する必要がある。生徒に主体性を求めるものである。

単元1を取り上げて説明する。単元1第2時(本校は50分2コマ連続授業のため、表1の時数3・4時間目にあたる)では各自で「ぐうぜんについて考え」(図3内タイトル参照)、その考えをもとにホワイトボードを用いてグループで話し合い、発表し、クラス全体で意見交換をした結果、「『自分の力じゃどうにもならないこと』と答えを出せた」のであり、「皆の考えをきいて自分の考えを深めることができた(図3参照)」のである。

深められた考えについて最も大切なことは何かを判断し、OPPシートに記述している

表 2：OPPシートを活用して行う授業スタイル改善の構造

	OPPシートへの取 り 組 み	
	生 徒	教 師
授業前		(OPPシートの骨組みの作成) 1. 単元の指導目標(以後指導目標 A とする)を立てる =本質的な問いを考える →OPPシート学習前後の問いとして記述するとともに、学習後に生徒に書いてもらいたいことを記述 2. 指導目標達成を目指し、授業を構造化 →OPPシートに毎時の指導目標(以後指導目標 B とする)を記述
授業導入時	(OPPシート学習前の問いの記入) 1. OPPシート学習前の問いを記述 =素材概念の外化 2. 何がわかりたいか考え、自分の意見を持つ 3. 2で持った意見をもとにグループで話し合う 4. クラスとしての学習目標を決める	(OPPシート学習前の本質的な問いの記入を指示) 1. 生徒に OPPシート学習前の欄に取り組みよう指示(書けない生徒は「わからない・書けない」と書いても良い) ※素材概念を外化させることが重要なので、頭に浮かんだことを素直に書くよう声をかける 2. 生徒にどうすればこの作品がわかるかを問う =学習目標を持たせる働きかけ 3. 生徒から出てきた意見について、何について・何から取り組むか生徒に決めてもらう =学習目標の決定をクラス全体で共有 ※教師は司会者・ファシリテーターに徹する
授業実施中	(OPPシート学習履歴の記入) 1. 学習目標達成を目指して取り組む 2. OPPシート学習履歴欄に今日の授業で最も大切だと思うことを記述 3. 随時、教師のコメントへの再記述等、学習履歴欄へ記述を追加	(OPPシート学習履歴欄の記入の指示・記述の見とり) 1. 授業導入時4で決まったこと =学習目標とあらかじめ立てておいた指導目標 A・B とを照らし合わせながら、授業実施 2. 生徒が記述した学習履歴を見とり、生徒の記述にコメント、次時の指導目標 B を修正 =授業の再構造化 3. 1.2に基づき、生徒の学習目標達成を目指し授業実践
授業終了時	(OPPシートを完成させる) 1. 学習履歴を振り返り、記述 2. 学習後の問いを記述 3. 学習前・中・後を振り返り、自己評価を記述 4. 次時以降取り組むべき学習目標の発見	(OPPシートを完成させる) 1. 学習履歴を生徒とともに振り返る 2. 学習履歴の振り返り・学習後の問い・自己評価・自分なりのタイトル・感想・疑問の記述を指示 3. 記述が進まなかったり、不十分だったりする生徒への個別対応 ※生徒が出来ていること・わかっていることを認識できるように働きかける。
授業終了後		(OPPシートから、改善と評価を行う) 1. 本単元での OPPシートによる見とりを次の単元の指導目標に生かす。 2. 回目の同一単元実施時に向けて指導目標・授業構造を改善する。

のである。思考力・判断力・表現力が発揮されていることがわかる。

生徒同志の交流によって多様な見方が認識でき、自己の見方の不十分な点に気づく。教師による講義式の授業スタイルではなかなかこうはいかない。皆の意見を聞いて自分の考えを深めようとする学ぶ意欲が向上し、自分が気づかないことは皆から学ぶのだという学ぶ必然性が感得できたのだ。

以上より、OPPシート・ホワイトボード利用が生徒が主体的に活動するためには有

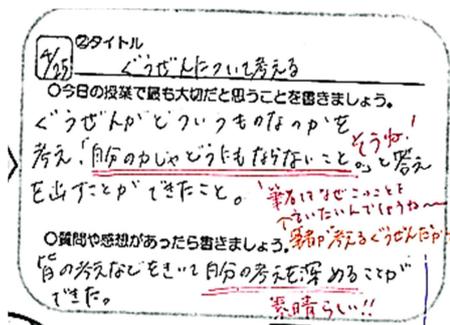


図 3：単元 1 の学習履歴(生徒 6B)

効であることが明らかになった。

(3) 学習活動の意味づけ・価値づけを行う重要性と必要性

後期授業開始時に、教科書にはない内容の授業(表 1 「★参照)を行った。その授業とはまず、OPPシートの学習履歴に書く内容の検討、次に生徒各自の 4 月と 9 月の OPPシート記述の比較である。

これは、生徒が学習活動を振り返ったり、比較したりすることで、学習活動の意味や価値を認識するための働きかけである。今までの授業では、学びに焦点を当て生徒に考えさせること

はしていなかった。学びに焦点化することで、生徒にOPPシートの機能や学び方を感得させること、メタ認知を育むことを意図した。

① OPPシートの学習履歴に書くべき内容を検討する重要性と必要性

OPPシート学習履歴欄に書くべき内容の検討により、生徒は考えて書くこと、自分なりにまとめて書くこと、その時に自分が大切だと思うことや友達の見解を取り入れることを指摘している。学習活動を振り返ることで、「自分なりに」という主体性の重要性が認識できている(図 4 参照)。この活動で気づいたこと・考えたことを書かせたところ、「学んだこと・大切なことを振り返り、自分の学びを見直すことができる。過去の自分と比較して成長がわかる。」(図 4 参照)と、OPPシートの機能を理解するとともに、自己の学びをメタ認知し、成長を実感している。



図4：学習履歴欄に書くべき内容(生徒6C)

加えて、図5の生徒の記述を取り上げる。この生徒は学びの経緯について「課題という問題意識の中から出るキーワードからつなげ、まとめる→それに対し他の意見の比較を入れる→比較したものに自分の考えや気持ちを書く・さらにその課題がなかったらと仮定した場合の考えや、これからすべきことについての考えを書く→最後にそれを通して自分の気づいたこと・考えや意見の変化をまとめる」と記述している。自分の学び方についてメタ認知している。こういう自分についてどう思うか教師がコメントすると、「考え方が成長している・自分の見解が広がった」とやはり、成長を実感し、自己効力感を得ている。

このように、OPPシートの学習履歴欄に書くべき内容を検討することにより、生徒は毎時記述している学習履歴の働きとその持つ意味を明確に認識するとともに、OPPシートの機能を理解し、学びかたを学び、成長することが明らかになった。

よって、OPPシートの学習履歴欄に書くべき内容の検討は、生徒が自己効力感を持ち、

課題という問題定義の中に入り、ノートから取り出さず
→それに対し他の意見の比較を入れる→比較したものに自分の
考えや気持ちをかく→更にその課題をなくしたらどうしたらいいか
などのことを考える→最後にそれを通して自分の気づいたこと
を考えた意見の変化をまとめてみる
という自分について、どう思いますか？
考えが成長しているから自分の見解が広がったと思える

図5：学習履歴欄に書くべきこと発表後の気づき・考え(生徒D)

メタ認知能力を育てるために重要で必要な働きかけだと言える。

② 生徒各自のOPPシート4月と9月の記述の比較の重要性と必要性

4月と9月のOPPシート記述の比較による生徒の気づきは以下の六点である(図6参照)。第一に、記述量の増加、第二に、理解力・記述力の向上、第三に、成長の実感、第四に、思考過程のメタ認知、第五に、学ぶ意味の感得、第六に、学習意欲の向上である。

こんなに多くかつ重要なことに生徒が気づき、枠からはみ出すほど記述したことに筆者自身も驚いている。このシートに取り組んだ時間は20分余りであるが、生徒は夢中になってペンを走らせていた。生徒はひたすら自分と向き合い、考え、学びを書き綴っていた。生徒の主体的に学ぶ姿が見られた。

「今回こういうことをできてよかった」と生徒が記述しているように、4月と9月のOPPシート記述の比較は、生徒の知識・理解・技能を高めるとともに、資質・能力の育成に効果があることを示している。

一枚のシート上で可視化して示すことによって、変容を目の当たりにする。それが生徒自身に気づきをもたらすのだ。学習活動の意味づけ・価値づけは教科書にはない内容だが、生徒の学びにとって非常に有効であることが明らかになった。

よって、年間の授業計画作成の際、学習活動の意味づけ・価値づけという生徒の主体的活動への働きかけを取り入れることを提案しておきたい。



図6：OPPシート4月と9月の記述の比較(生徒B)

(4) 学習活動の意味づけ・価値づけ後の生徒の変容

① 自己評価欄に表れた学びの質の向上

表1「★」前後の単元3と5の自己評価欄記述内容を比較すると、学びの質の変容が見られる(表3参照)。本文の内容をまとめただけだった記述が、自分なりの考えを付け加えたり、わかるようになった理由やわかった自分についてメタ認知したりする自己評価に変わった。それを踏まえてこれからこうなりたいと学習目標に関する記述も増えた。他にも、

表3：表1「★」授業実施後のOPPシート自己評価欄記述の変容(全58名 複数項目抽出)

記述要素	単元3	単元5
内容のまとめ	33	16
自分なりの考え	18	23
学び方	14	19
構造化	13	11
学習目標	2	17
メタ認知	8	15
意欲	9	15
達成感	1	1
変わらない	1	4
わからない	0	1

矢印で結び自分の意見を図式化したり、本文の内容をより一般化して客観的に述べたり、楽しさ・意欲を示したりする生徒も増えた。

学習活動の意味づけ・価値づけ後は、生徒の学びの質が向上し、この働きかけが重要であることを表している。

② 学習履歴・自己評価欄変容の事例

図7～10は同一生徒のOPPシートの記述である。単元1では、最も大切なことについて本文を抜粋している。ただ、「自分の考えを皆に伝えることができてよかった」と自分の考えを持ち、伝えるという主体的活動はできている。

ホワイトボードを用いた話し合い活動の有効性を表している。その生徒なりに自己効力感を得ていることがわかる。この段階でも不十分な点はあるが、よく学んでいると言える(図7参照)。

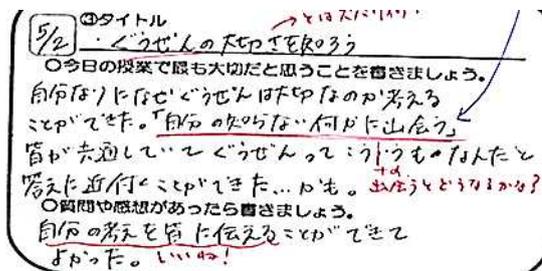


図7：単元1のOPPシート記述例(生徒B)

一方、表1「★」の授業後である単元5では以下の九点の変容が見とれる(図8・9・10参照)。

- 第一に、記述量が大幅に増えた。
- 第二に、第2回の授業(表1、時数の第3・4時・本校は50分2コマ連続授業)の段階で「毎回の授業を通していろんなことをりかいて最後に『こういうことか!』とりかいて終われるようにしたい」(図8参照)と単元を通しての学習目標を持ち、授業の構造化を認識

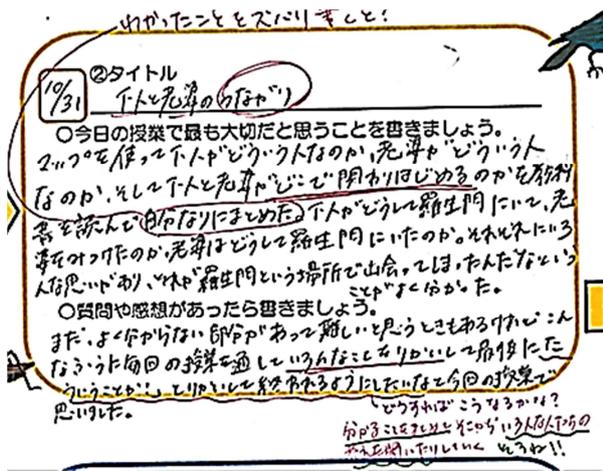


図8：单元5のOPPシート記述例(生徒B)

するようになった。

第三に、教師のコメント「どうすればこうなるかな？」と学び方を学ばせる働きかけに対し、「わかることをまとめてそこからいろんな人たちの考えを聞いたりしていく(図8参照)」と具体的に返信し、学び方を学んでいることを示した。

続いて、第四から第九については、第4回の授業の学習履歴である図9(表1、時数の第7・8時)の記述の要点を示し、説明する。

第四に、「人は何か1つのきっかけで悪にさえも変わってしまうと伝えたかったのだ」と小説のテーマに迫るまで考えが深まった。

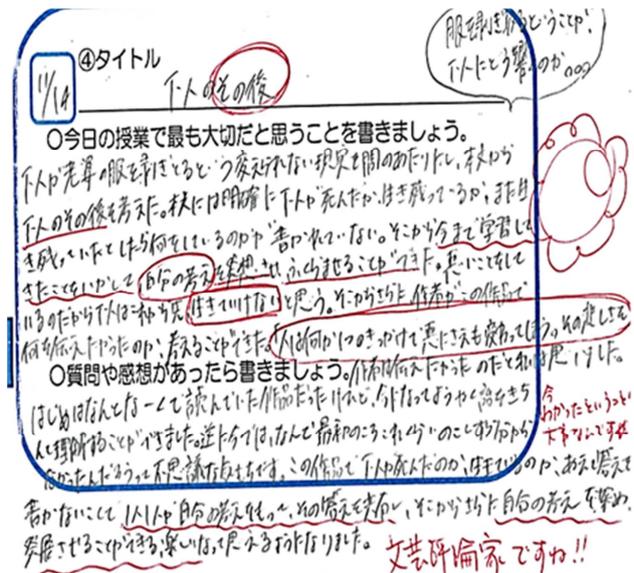


図9：单元5のOPPシート記述例(生徒B)

第五に、「この作品で下人が死んだのか、生きているのか、あえて答えを書かないことも1人1人が自分の考えを持って、その答えを共有し、そこからさらに自分の考えを深め発展させることができる」と学ぶ手ごたえを感じた。

第六に、「楽しいなって思えるようになりました」と学ぶ意欲が向上した。

第七に、「学習中は、たくさんのことを本当に勉強しました。でも、読んでも内容を理解することはできませんでした。内容が全くわからないままメッセージ(筆者注:学習前後の問いのこと)を考えるのは不可能だしまったくもって自分のためにはなりません。1つ1つまとめていく必要がありました。」と学びの経緯をメタ認知した。

第八に、「そこから小さなことを少しずつ理解していき」と学び続ける姿が見とれた。

第九に「いろんな投げかけられた問題について『考えて』理解を深めていくことが正しい学習の仕方だと思いました」と学び方を学んだ。

授業第2回で生徒が自ら学習目標を持ち、学びの過程を学習履歴として外化し、可視化してきたからこそ、目標達成を自己評価でき、上記九点もの知識・理解・技能と、資質・能力の向上が図られた。

③ 感想欄変容の事例

図11は図7~10と同一生徒の单元5の感想欄である。生徒自身の記述が本研究の有効性を五点示している。

第一に学ぶ意味の感得の記述。「今回のテーマはあくまでも『考える』ということだったので、その役に立てるよう毎時間大切にして集中してきた。」

第二に学習意欲を示す記述。「先生から投げかけられる質問にはなるべく自分なりのちゃんとした答えが書けるよう努力した。」

第三に学び方を学ぶ記述。「もしわからなか

以上より、本研究が、生徒が学び方を学び、資質・能力を育めたと言える。

5. 終わりに

生徒がわからないと素直に外化することが授業の出発点であると筆者は考える。しかし、高校生は、間違いたくない、正しいことだけ知ればよいという思いが強く、素直に外化することのハードルが非常に高い。だからこそ、OPPシートの学習前の問いで、素朴概念を外化させることが重要なのである。

『わからなかったら、わからない』と書けばいいんだよ。」という働きかけで、まずは生徒の頭の中を出させるのである。頭の中を外化させる働きかけを積み重ねていくことで、生徒は素直にわからないと外化できるようになる。個人で考えた後、話し合いやクラスでのグループの発表により、意見を交流し、再度自分で考えることにより、本時の最も大切なことを自分なりに記述できるようになる。

このように、毎時学習履歴を記述し、可視化させることで段々わかっていく体験をし、間違ってもいい、最初はわからなくてもいい、でも、学んでいけばできるようになると自信をつけていくのである。

生徒が自己効力感を得るよう働きかけることで、主体的に活動する授業スタイルが機能し始めるのである。

自己効力感を得ることで、もっとわかりたいと学習目標を持つ。受動的態度ではなく、自分の力や生徒同志で協力して学ぶという主体的な学習観を醸成し、学ぶ意欲を持ち、学び続ける。教師は生徒が主体的に活動するよう常に働きかけ、生徒と教師がともに学習目標達成を目指す授業の在り方が筆者が主張する授業スタイルである。

これらの全体が、メタ認知を育む仕組みであり、学習指導要領でその育成を目指す「生きる力」に迫るものである(図12参照)。

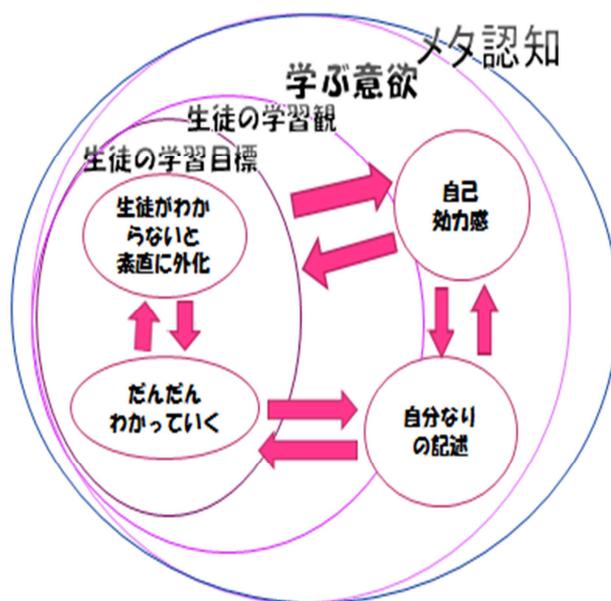


図12：メタ認知を育む仕組み

6. 今後の課題

OPPシートを活用することで、生徒が学習目標を持ち、その達成を目指して主体的に活動するという授業スタイルに改善できたと言えるが、すべての生徒が学習目標を持てるようになったわけではない。わからないことに劣等感を持ち、学ぶ意欲を持っていない生徒がいる。すべての生徒のメタ認知を育成し、資質・能力を育むことが今後の課題である。

7. 参考文献

堀 哲夫著(2013)『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の紙の可能性』東洋館出版社

堀 哲夫(2013)「高等学校の学習指導と学習評価の工夫改善(理科)」『中等教育資料』平成25年7月号 pp.10-15

文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 国語編』